

平成30年3月30日

伊勢原市協働事業完了報告書

伊勢原市長 殿



住 所 東京都世田谷区桜丘1-1-1
団 体 名 東京農業大学地域環境科学部
地域創成科学科 地域デザイン学研究室
代表者氏名 助教 町 田 怜 子

平成29年6月28日付けで協働事業採択決定通知を受けた事業が完了しましたので、伊勢原市市民協働事業提案制度実施要綱第14条の規定により、関係書類を添えて次のとおり報告します。

1 協働事業の成果

協働事業名	比々多地区周辺における農・文化資源を活用した地域活性化プログラム開発
事業費総額	100,000円
事業期間	自 平成29年 6月28日 至 平成30年 3月30日
実施場所	伊勢原市比々多地区周辺
参加者数	延べ50人
事業実施内容及びその成果	(1) 善波地区、坪ノ内地区、栗原地区の地域資源の調査 (2) 幼児を対象とした農体験プログラムの試行 (3) 地元まちづくり組織との意見交換 (4) 協働事業成果のまとめ

2 添付資料

- (1) 伊勢原市協働事業収支決算書（第8号様式）
- (2) 協働事業の実施に要した費用の領収書等の写し
- (3) その他市長が必要と認めるもの

第8号様式（第14条関係）

伊勢原市協働事業収支決算書

協働事業名	比々多地区周辺における農・文化資源を活用した地域活性化プログラム開発
団 体 名	東京農業大学地域環境科学部 地域創成科学科 地域デザイン学研究室

収入の部

区 分	決 算 額 (円)	内 訳 (数量、単価等)
市負担金	100,000円	
収入合計額	100,000円	

支出の部

区 分	決 算 額 (円)	内 訳 (数量、単価等)
報償費	50,548円	調査協力謝金 @33,411円×1人 調査協力謝金 @11,137円×1人 調査協力補助 @6,000円×1人
旅費	6,870円	現地調査 2回×[500円×2] 地区協議会等 1回×[500円+370円]+4回×[500円×2]
消耗品費	1,494円	ペンセット、ボールペン
印刷製本費	41,166円	トナーカートリッジ、プリンタ用紙
支出合計額	100,078円	*差額は、東京農業大学が負担。

事業評価シート

○協働事業名：比々多地区周辺における農・文化資源を活用した地域活性化プログラム開発

○協働事業者：東京農業大学地域環境科学部 地域創成科学科

地域デザイン学研究室 助教 町田 怜子

○事業期間：平成29年6月28日から平成30年3月30日

段階	評価項目
準備段階	1 協働が開始された段階はいつからか ☐企画の段階から ☒実施段階から ☐その他 () 2 協働の呼びかけはどちらからか ☒市民活動団体 ☒市 ☐その他 () 3 協働で行う意義は明確だったか ☒はい ☐いいえ 意義 [大学の先駆的な取組により積み重ねられたノウハウを活用した多様な主体の交流による地域づくり] 4 事業の目的は明確だったか ☒はい ☐いいえ 目的 [地域資源を活用し多様な主体との交流を促進する地域活性化プログラム開発とその基礎的研究] 5 事業の目標 (何がどのような状態になることを意図しているか) は明確だったか ☒はい ☐いいえ 目標 [地域資源を生かした新たなまちづくり方策の創造] 6 相互理解は十分だったか ☒はい ☐いいえ 理由 []
実施段階	7 協定書作成にあたって十分協議したか ☒はい ☐いいえ 理由 [] 8 事業運営上の役割分担は適切だったか ☒はい ☐いいえ 理由 [] 9 進捗状況や情報を共有できたか ☒はい ☐いいえ 理由 [] 10 実施プロセスの記録は残せたか ☒はい ☐いいえ 理由 [] 11 互いの特性を活かすことができたか ☒はい ☐いいえ 理由 []
終了後の段階	12 事業内容の報告を作り、公開できたか ☒はい ☐いいえ 理由 [] 13 目的・目標は達成できたか ☒はい ☐いいえ 理由 [] 14 今後の課題と改善策を話し合ったか ☒はい ☐いいえ 理由 [] 15 総合的に見て事業に対する満足度は 【 5 (4) 3 2 1 】 理由 [] 16 その他、気づいた点
他地域で先駆的な取組を実践している大学と協力することで、地域資源の調査のみならず、地元まちづくり組織との活動も強力に推進することが出来た。	